

ロータリーワンポイント情報 高橋 邦弘 パスト会長

本日は今から50年ほど前の、ロータリークラブの活動委員会の話をしたいと思います。当然、当クラブもR Iの指針に従って同じ奉仕活動をしていました。活動委員会名も現在とは違い、エ～と思う様な委員会がありました。

社会奉仕部門に「不具児童救済委員会」差別用語と受け取られかねない名称の委員会がありました。これは後に「社会安全・心身障害・高齢者委員会」という長い名称の委員会に変わりました。

また同じ社会奉仕部門に「都市農村親睦委員会」がありましたが、この委員会は当クラブ創立当初から、当時、僻地といわれていた農・漁村に、釧路J Cと協力して会員の医師が訪問、健康相談と診療を行い、感謝を込めて歓迎を受け、関係先より大きな反響を受けたそうです。

その中でも1963年(昭和38年)には、無医村部落・片無去で医療健康相談と懇談会を開催し、金一封とともに「子豚3匹」を贈呈して大変感謝されたと記録されております。その後も釧路J Cには資金助成も含めて、1970年まで12年間協力したという事です。そして職業奉仕部門に「売手買手関係委員会」という委員会がありましたが、この委員会が正にロータリーの原点なのです。

ポール・ハリスが最初に描いた構想は、最初から奉仕という崇高な目的でロータリーを創ろうとしたものではありませんでした。当時はアメリカ社会の変動期で、シカゴは犯罪・汚職・暴力などの巣窟で、悪徳商法が横行し「騙して売る者より騙されて買う者が悪い」「他人にやられる前にやれ」という考え方が支配的でした。

ポール・ハリスは荒廃した人間関係とビジネスを憂い、人間が本来持っている道徳心と基本的倫理で、一業種一人の競合のない、明るくて友情の深める事の出来るサークルを作ろうとしたのです。これがロータリー誕生の原点であり、その名残が「売手買手委員会」なのです。

ちなみに、この委員会は1965年まで残っていました。

新入会員卓話 平田 康則 会員(親睦家族委員会)

私の勤めている明治安田生命という会社、釧路支店、情報提供について話します。2004年に旧明治生命と旧安田生命が合併しました。

旧明治生命は明治14年阿部泰造が創業者として創業しました、旧安田生命は明治13年安田善次郎が開設、安田生命となりました。安田善次郎は当初は金融業でしたが、鉄道事業に力を入れていました。

硫黄山の採掘に着手して、その時日本で初めての鉄道を敷きました。明治20年の釧路鉄道、現在の釧網線で標茶と弟子屈間に造った。

明治20年から大正9年までの33年間で二十数社の鉄道事業に貢献しました。東海道本線はね明治22年7月開通、日本鉄道の上野から青森間は明治24年9月開通で、安田善次郎は鉄道を個人としていち早く造ったという事は凄い事だと思った。

2004年の合併の期待は大きかったが、2度に亘る業務停止命令を受けた。その後、明治安田再生プログラム、今はチャレンジプログラムを実施して、お客様の求める事に誠実に対応し、負託に答える。



お客様の大切に作る安心と利便性の実感の為に、満足度向上の徹底追求。新風土創造の継続。の3つを基本の柱として推進している。

お蔭様をもちまして、順調に収入増加を継続しており、2000年支払い余力は業界ナンバーワン、自己資本比率も堅実な数字であります。

釧路支社は、釧路、根室、十勝、網走支庁を管轄、12の拠点がある。内勤職員70名、営業職員200名、契約件数44,000件であります。取り組んでいる社会貢献活動をしょうかいします。ペットボトルのキャップ回収活動、ポリオワクチン変わります、今年度58万個のキャップを企業、個人から回収し、ワクチンに換算すると725人分となります。3年前から行っており、トータル149万7千個回収、換算すると1871人分となります。地域への貢献として、自然の番人宣言の協賛企業第一号です。標茶町の森と川の月間の清掃活動に参加し、ゴミ袋の贈呈をしました。また、各営業所毎に使用済み割り箸の回収、介護施設へのタオル寄贈、プルタブを社会福祉協議会へ寄贈などの活動を合わせてやっています。会社全体としては、営業が緊急連絡先（警察など）を掲載したネームタックや防犯笛を持って、危険を察知した時に使用する。小学校一年生向けの黄色いワッペン（腕のところ）の協賛、音楽を通じた健全育成で、愛と平和のチャリティーコンサートで集まった基金が、日本フィランソロフィー協会を通して、NPO法人トラストサルン釧路（釧路湿原を守る）の方へ贈呈、ふれあいコンサートは今年、帯広地区2カ所で障がいのある子供たちを対象として社会貢献活動を行っております。

情報として、人口の増減について、2009年の出生者数は106万9千人、前年比2万2千人減、死亡者数は114万4千人、前年比2千人増加で、1年間に7万5千人の自然減となった。平均寿命は延びているので人口も増えているものと思っていたが、2005年に初めて減少を記録して1年戻したが、再び減少し、その後減少数は年々増加しているのが現状であります。結婚は71万4千組、離婚は25万3千組。生まれる人は30秒に一人、亡くなる人は28秒に一人、結婚される方は44秒に1組、離婚する方は2分5秒で1組。保険会社の生命表から、0歳の子ども10万人が20歳を迎えるのは99,317人、60歳は90,645人、80歳男性は56,460人、女性は77,000人、90歳は44,889人です。

年金の準備をしていただければ大変有り難いことでもあります。

新入会員卓話 大谷 博章 会員（親睦家族委員会）

今日の卓話の依頼を受けた時、丁度出張と重なり断ろうと思ったのですが、朝一で間に合うという事で、始発の電車に乗ってきました。

プリンスホテルを日頃から、皆様方にご利用頂きまして大変ありがとうございます。このホテルも18年、皆様との繋がりも18年間です。私は着任して、ほぼ8カ月となります。

簡単に自己紹介申しますが、ロータリーに関してはキャリアが浅いので、他クラブを見た感想とします。

私は昭和28年、積丹のふもと寿都町で生まれ、実家は明治からの金物店の老舗、又、母方の父は船頭で海と商店街で育ちました。

ホテルとのつながりは、1973年（札幌オリンピックの翌年）から札幌プリンスホテルで18年、北広島に新ホテル建設の準備室に入り、一から育て上げたが、札幌に近いのが営業的に良くなって、16年間オハヨーからオヤスミまで、最後の支配人を勤めました。今はよその会社が営業しています。

その後、富良野プリンスホテルにいました。極端な話、底と天井を見たという事です。北広島は営業成績が非常に悪く、富良野は利益が潤沢に出るところで2年間良い思いをさせて戴きまして、そして釧路への人事となりました。

たどった道は丁度特急おおぞらと同じで、札幌始発で北広島を通過、富良野エリア（新得）そして釧路です。終着ですのでこれ以上はないだろうと思っております。



私のロータリー暦は浅いが、クラブは3つ目であります。北広島RC、富良野RC、釧路北RC、印象として北広島RCは、交換留学生が大変盛んで、会員20名弱ですが留学生をきっちり受け入れ、会員の子供を出しています。

富良野RCは、40年余りの歴史のあるクラブで、まだチャーターメンバーがおられ、最高齢の方は91歳、ロータリーは何かという事を常に説いていらっしゃいます。会員の義務であるロータリーの友を読む事は徹底しており、情報委員が縦組み、横組みを事前に全部読んで、いい内容の記事があるので読みなさいとやっていた。なかなか読書がされない現在、良い事だと思いました。

釧路北RCは、ロータリーの活動、意義に対して真摯に活動されている、ロータリーの歴史を踏まえて、北RCの位置的なものを考えてやっている事に感銘を受けました。今後とも宜しくお願い申し上げます。